

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

たつの市長 山 本 実

市町村名 (市町村コード)	たつの市 (28229)
地域名 (地域内農業集落名)	牧地区 (牧集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年12月2日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、耕作者の高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進める方策が必要である。また、農地面積が広く、保全管理田も多いことから畑地として利用している農地の水路に草が生えたり、水路に面した法面が崩れていることが問題となっている。また、頭首工の護岸が破損し、取水しにくいため地元で修繕をしているが抜本的な解決は出来ておらず、今後何らかの対策が必要である。

【地域の基礎的データ】

主な作物: 水稻、野菜

## (2) 地域における農業の将来の在り方

遊休農地が増加傾向にあり、出来るだけ集落内の耕作者で耕作を行い現状を維持したいが、場合によっては農地に空きが出た場合は新規就農者の受入れも検討する必要がある。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	56 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	28 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
今後検討
(2)農地中間管理機構の活用方針
今後検討
(3)基盤整備事業への取組方針
水利施設などについては、受益者等と連携し、適期に補修対策を行うなど、集落として計画的な維持管理に努める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
新規就農者の受入れについて、今後検討する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
今後検討

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①イノシシやシカの被害が拡大しないよう集落として防止柵を設置しており、鳥獣被害防止対策は集落として取組む。